



4月から有床の診療所となる
両小野国保病院

念されるが。
(鈴木)

【答】 国、「広域」からの方針が示されてくるが、一律的に扱わず個々の状況に十分配慮し、慎重に対応していく。

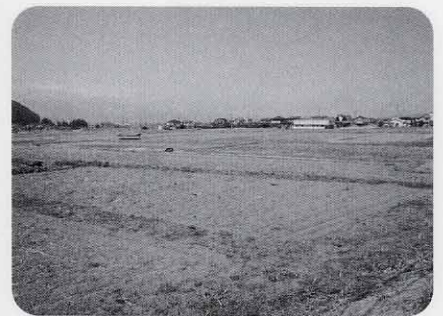
◆両小野国保の新たな対策は

【問】 両小野国保病院は4月から有床診療所となり、遊休施設や失職者が生じるが、支援が必要な人は誰でも受け入れるフレキシブル支援センターを緊急雇用対策として導入できないか。
(小野)

【答】 病院事務局にも提案を報告し、どんなことが可能なのが雇用面にも配慮して検討してみたい。

◆小規模農業も含めた活性化

【問】 小規模農業も含めた、市農業の活性化に、直売所活動の強化と体験型交流で消費者への働きかけを。
(鈴木)



塩尻産米の消費拡大など
市内農業活性化の研究を

【答】 直売は首都圏の消費者との交流では受け入れ態勢、相手先などJAとの研究会を設け検討していく。

◆塩尻産米一層の消費拡大を

【問】 水田転作の未達成原因と今後の取り組みは。
(古既)

【答】 額縁状の転作予定地への過剰な植付けや大規模農家に転作しない者も少数ある。地産地消の見地から市の米生産量4千トン、丁度市の消費量に相当する。市民に塩尻産の米を多く食べてもらいたい。

新体育館 建設の ゆくえ

◆体育館整備の議論の中身は
合併特別債が利用できる

【問】 間でない建設が難しいという理由で新体育館を建設することは先送りすべきと考える。予定されている規模の体育館をどこにつくるのかの議論ではなく、災害時の避難施設の整備のことも含め新体育館をつくるかどうかの議論が必要なのではないか。
(柴田)

【答】 社会体育施設や防災施設、大きな体育館の維持費の問題などトータル的な市民の良識の上に立った判断の結果が、8千200㎡の体育館を塩尻消防署南につくるという計画に至っていると考える。

◆新体育館建設の考えは

【問】 規模や場所の選定理由と調査委託料の目的及び課題は何か。
(永井)

【答】 飛び込み市民会議の意見やアンケート調査結果と体育



飛び込み市民会議で配布された
新体育館建設に関するアンケート用紙



新体育館の第一候補地とされた
中央スポーツ公園エリア

館建設研究委員会の最終報告書を考慮し、延べ床面積は8千200㎡以内とし、建設場所はアンケート等の結果では、57・47%が中央スポーツ公園エリアを望んでおり、利便性、インフラ整備、市有地、市街化区域等、建設条件の優位性を考慮して、第一候補地とすることとした。

【問】 調査委託料は、防災拠点の適正や正確な実測図により、駐車可能台数や建物シミュレーションの検討等、精度の高い資料をつくるため。

【答】 今後の課題は、駐車場確保と経済状況を注視した、健全財政運営に配慮し、合併特別債が利用できる平成26年までの建設が、現実的な対応と考えているが、フレキシブルな考え方で、慎重に検討する。